

102 『流行の記録』 彩色版画の絵入り

Records of fashion illustrated with colored engravings. London, Mrs. Fiske, 1808. 129p. 21 plates (copper. hand-col.) 25.7×20.0cm <383. 13-R>
Hiler p. 306, 736 Colas 1042, 2493

本書は、当時まだ希少であったファッション・ブックの一つ『ロンドンとパリの流行』Fashions of London & Paris (100) の続刊として刊行された『流行の記録と宮廷の優雅さ 1807, 1808—1809年』(1807—1809)の一部で、1807年の流行の記録である。フィスク夫人の監督の下に出版され、エリザベス女王への献詞が記されている。手彩色の点刻銅版画による口絵を入れて21枚の挿図は英国皇太子妃シャーロットの絵画教師で、ヨーク公と同夫人の細密画家、また女王の水彩画家でもあるクレイグ (William Marshall Craig 1788—1828) が原画を描いている。刻版はロンドンの肖像画家ケナーリー (J. Kennerley) によっている。クレイグは1791年にマンチェスターからロンドンに移り、まもなく細密画と肖像画家として名声を得、また木製品の意匠図案家の主要なひとりでもあった。

本書における服装の歴史は、広範囲な典拠資料に基づき、服装が各時代、各国の詩歌に対して影響を及ぼしてきたこともあって、文中にそのような美しいラテン語の訳詩や原文の詩節を引用し、優雅な服装に対する一層の趣向を凝らしている。図版の衣装には、プエノスアイレス、イタリア、ロシア、トルコ、ギリシャ、パリ、デンマーク、ノルウェー、ラプラント、グリーンランドなど各国の服装の部分的要素を取り入れている。

当時、イギリスの単純化を目ざした簡素な古典主義様式の服装は、産業革命に伴う綿織物の技術的進歩や海外進出による植民地からの珍しい多量の材料輸入によって、独自の流行をもたらした。単純な筒型のシュミーズ服は胸高なのが特徴である。色調は白か無地で、すそには花や木の葉を刺繍した縁飾りや先を細くとがらせたヴァンダイク風のレースが付き、布地はモスリンや寒冷紗のような柔軟な薄地が愛好された。髪型やかぶりもの、装飾品までも古代風に装われた。つまり、これが直線型のシルエットのいわゆるエンパイア・スタイルである。(佐藤)